

# シルバー 人材センター会報

社団法人

流山市

シルバー人材センター

事務所

流山市東深井989

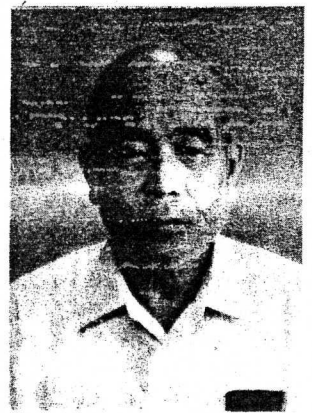
電話

0471-55-3669



江戸川台東駅前農協付近自転車置場

## 会報発行について



会長 藤 正 一  
後

会報発行については旧事業団当時より積年の夢でありましたが、今回シルバー人材センター発足を記念して、創刊号を発行する機会を得ました事は誠に同慶に堪えません。

市長さん始め各界名士の方々のご寄稿を頂き有難く存じます。

又、事務局便り及び会員各位の声その他等を掲載致しまして、市民及び会員相互の疎通を促進し、センターの発展に寄与する事大きいと確信するものであり、皆さんの御投稿を歓迎しております。

さて、シルバー人材センター設立に際し、関係各位並に会員の方々より多大の御尽力を賜りました事について厚く御礼申し上げます。お陰様にて三月二日、法人設立登記を完了致しましたのでご報告申し上げます。

今後、センターの運営等については、当局のご指導を頂き乍ら皆さんと協議して進めて行きたいと考えております。

皆さんのご指導とご協力をお願い致します。



### ご挨拶

流山市長  
秋元大吉郎

冬が厳しく、そして長いほど、春の訪れの喜びは大きいものです。例年になく遅いこの春の訪れとと



### 「会報」発刊を祝して

流山市議会  
議長 松永 清

社団法人流山市シルバー人材センターの会報発刊にあたり、市議会を代表し、心からお祝い申し上げ

もに、シルバー人材センターの会報が創刊されることは、私には何か明るい未来を象徴している様に思えます。

さて、社団法人シルバー人材センターが発足して二ヶ月を経た訳ですが、準備期間も含めて、高令者事業団からの切換えに携わられた役員の皆様のお骨折りは、誠に筆舌に尽し難いものがあつたと存じます。改めて心から御礼を申し上げます。

シルバー人材センターは、これから本格化する高令化社会における、高令者の生き方を実践するべきです。

シルバー人材センターは、前身であります流山市高齢者事業団が会員皆様の弛まぬ努力により発展を続け、この度目出度く法人化され、法的にもその格付けが明確化され、市民からもその活躍が期待されているものであります。

今後、益々高齢者社会が進む中で、その対策が社会問題となっております。高令者の雇用、社会復帰等に明るい希望を投げかけた訳であります。

市議会といたしましても、市と

イオニア集団であります。

老人の居ない、前例のない未来を、自ら先人となり自ら前例を創りつつ未来を拓いて頂かなければなりません。

私も及ぶ限りのご援助をさせて頂きますが、折角のご活躍を心から期待しております。

シルバー人材センターの愈々のご発展と、会員の皆様のご多幸ご健勝をご祈念申し上げます、ご挨拶といたします。

市の木 黄 楊



共々協調し、心のふれ合った、血の通った福祉施策の充実に邁進する所存であります。

終りにあたり、今後のシルバーセンターの益々の発展と会員皆様方のご活躍・ご健康をお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。

\*\*\*\*\*

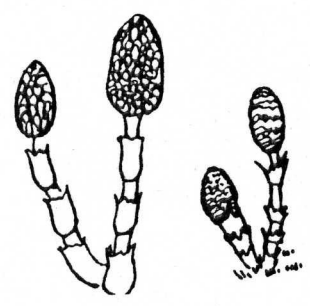
### 会報発刊にあたり

広報部長 鈴木 政 信

シルバー人材センターが、発足二ヶ月にして、創刊号を発行するに至りました事は、市当局をはじめ会員各位の絶大な、ご協力の賜と存じます。

会報の必要性は、今更申し上げるまでもなく「暗夜に燈火を得た」ようなもので、私たちは迷うことなく仕事に精進することができ、また生き甲斐ある人生を楽しく過ごすことができるものと思えます。

産声をあげた会報、これからのように育てたらよいか、それは、子供を育てることと同じではないでしょうか、皆さんのお力によっ





働くことは生き甲斐

千葉県議会議員  
館野 晃

流山市シルバー人材センターの  
発足、そして同機関紙の創刊、ま  
ことにおめでとうございます。



祝  
辞

社会福祉法人  
流山市社会福祉協議会

会長 林 宗一郎

高齢者の就労機会の確保と福祉  
の増進をはかる能力を生かし、活

任意団体の高齢者事業団から法  
人格をもった人材センターへ  
この移行は、思うに大変な前進で  
した。事業内容の充実、拡大や、  
補助金の増額等もさることながら、  
その存在が公認されたわけで、メ  
ンバーの皆さんにとりましては、  
働き甲斐の増大がはかり知れない  
利得でしょう。

働き甲斐は、生き甲斐でありま  
す。「働」という文字が、「人」  
と「動」から成っておりますよう  
に、働くことは人間の本性に則し  
たものです。そして、お年寄りが  
働かれるのは、雇用と就労の関係

力のある地域社会づくりに寄与し  
ようとして、これまで任意団体と  
してこゝに社団法人流山市シルバ  
ー人材センターが発足いたしました。  
誠に、誠にありがとうございます。  
こゝに至るまでたゆまぬご指導  
をされた市は勿論でございますが  
関係者としては苦勞をされた後藤  
会長さんを始め役員、会員の皆様  
に心より敬意と感謝を申し上げます。

いま、我が国は急速に近づきつ  
つあるといわれる高齢化社会に対  
応しようとして色々な課題が提起  
されて居りますが、それは結局い

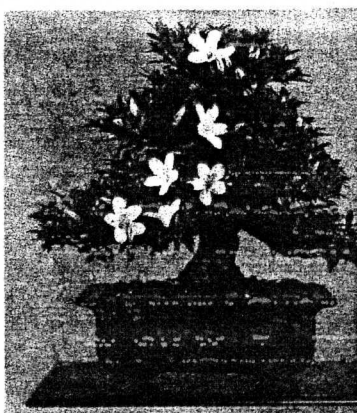
以上に、むしろ社会参加と健康維  
持の意義が大きいと思えます。社  
会参加を拒否したような鴨長明で  
すらも、健康という点では、「常  
に働くはこれ養生なるべし。何ぞ  
いたづらに休み居らむ」と、『方  
丈記』でいっています。

健康で働けること自体、すでに  
幸福なことなのですが、皆様方の  
そのご幸福の上に、人材センタ  
ーのご発展によつて、さらにいくつ  
ものお幸せが積み重なりますよう  
祈念してやみません。なお、何か  
お役に立つことがありますれば、  
及ばずながら私、精一杯努力さ

かに合理的に生きようと努力する  
か否かの個人的選択に係っている  
と思うのです。  
敵しい表現の様ですけれども、  
これを超えるには毎日を真剣  
に努力して初めて与えられる明る  
い意義のある人生につながるもの  
と考えます。  
そのきびしさを早く察知して、  
この様な社会的責任を確立した会  
を組織し結束する皆様方のお姿は  
誠に当を得た尊いものと考えます。  
こゝに改めて参加された百七十五  
名の会員の皆様のご健祥と人材セ

て立派に成長させたいものです。  
会員の皆さん、文章の優劣は問  
題ではない。皆さんの声をどしど  
し会報にご投稿下さい。  
会員一人ひとりの衆知を結集し  
てこそ立派な、しかも味のある会  
報となつて、市民の皆さん方に喜  
こんで読んでいただけるものと信  
じてやみません。

\*\*\*\*\*  
せていただきたいと思います。お  
りま



市の花 阜 月

ンターの益々のご隆昌を心よりご  
祈念申し上げます。

### 祝 辞



流山市商工会

会長

伊藤重三

流山市シルバー人材センターの  
結成おめでとうございます。



### シルバー人材センター 設立を祝して

流山市老人クラブ

連合会会長

鎌木寿夫

事業団当時も、常々、放置自転車や、他各種事業について、全く奉仕的低賃金でお働き頂き市民一心から感謝申し上げておりました。

しかし社会全般、必ずしも私たち高令者に対し、その処遇は物心両面とも充分とは言えない面が多あるよう感ぜられます。例えば電車内等で、青少年その他、通勤等の方々も、シルバーシートに荷物などを置いたまま座席を独占し、決して席を譲ろうとしないような情景をよく見かける場合がございます。

それは又それとして、私たちも「俺は老人だから」と漫然と過すことなく、地域社会の発展や国家のために貢献することは必要なことと存じます。特殊な技術や技能をおもちの方々は勿論、日々の生活に充分余裕のある方々であつても、国家社会の一員として、許す限りお働きを頂き、お互いに助け合い、世界の先進国として、更に文化・経済の発展向上にご援助のほどお願い申し上げます。

我々商工業者の中にも、細かい部品をより分ける作業や、又は瀬

高令化社会に向ってすばらしい勢いで進みつゝあるのは御存じの通り来る二十一世紀の頃は二十一年の高令者数と聞くが、その頃の社会状況等々を想像すると福祉に關することだけでもどんなことになるだろう医療は、年金は、と思うと不安やら期待やらと考えさせられます。

戦前は人生五十年だったが現在では男七十四歳、女八十歳近い平均寿命であり、何れも二十五年から三十年延びて誠に同慶の至です。健康で生涯、社会参加を望む

のは万人同感で急務である。この時に当り流山シルバー人材センターが社団法人として設立されたことは限りないお慶びであります。設立された目的を達成するために、事業と運営にはなみなみならぬ御苦労が多々あることと思えます。活動を活発化するためには社会資源の活用で、具体的には人的資源をあくまで活用することだと思えます。幸にして、全会員から設立代表者後藤正一氏が選任され会長就任に予定されて居ることは、流山シルバー人材センターが

戸物の取扱い等には、かえって中年の方々の方が適当であるとお話も伺っておりますので、今後の問題として、貴センターともお話し合いの上、善処して行きたいと存じます。

終りに臨んで貴センターの益々の発展と、関係各位の御健祥、特にご長寿のほど念願申し上げます。祝辞にかえさせて頂きます。



県の木 榎

立派に成長されることが約束されたことであり、心からお祝い申し上げます。





二十世紀の姥捨山

石島 周 司

人は誰もが、父と母の生物的本能(種族保存)の性的衝動の所産として、必然的偶然に此の世に生命を享けたのであります。

一旦この世に生れ出ると、本能的に栄養衝動が起り、食べる欲求が生じます。その結果成長し、やがて性的衝動が発動して増殖活動をいたします。この連鎖的繰り返しが人間社会の現実であります。

このような姿は動物総ての営みでありますが、人間は他の動物と違って生命維持の促進を計る為、集団としての社会を構成します。有史以前の人類の生活は、それだけが生活の全部であり、衣食住が満たされれば充分幸福感が得られたわけであります。

処が人口が増加すると共に、生命維持の根本である衣食住の確保が脅やかされるようになりますと姥捨山や檀山節などに現われた人命の切り捨てが行われます。

このような現象は何も原始時代のみとは限りません。文明の進んだ社会にあっても生命の維持に対する根本目標は変る

ことはありません。

これが維持不能となれば、二十

一世紀の文明社会に於ても必ず姥捨山は出現します。

現在に於ても、印度やアフリカ諸国に見られるように毎日多数の人命が捨てられております。

これを日本の国に引き換えて考えて見ますと、私達の衣食住は概ねデラックス過ぎる程恵まれております。

それにも拘らず、ある意味の姥捨山は現存しております。今の核家族化は体裁のよい姥捨山ではないでしょうか。

これが二十一世紀の高令化社会になりますと、極度に労働人口が減少して、四人で一人の老人を養うような社会構成になると言われております。そのような時代を想定しますと、

生命維持の衣食住を確保することが危くなることも考えられます。現在の吾々高令者はその頃この世には居りませんけれど、と言うてこの問題に無関心では済まされません。

だとすると現実問題として、具体的はどうすればよいのでしょうか。少くとも、今の高令者は何か考

える責任があるのではないでしようか。

流山市に於て今回、高令者事業団が発展的に解消して、シルバートリセンターとして新たにスタートしたことは、前記のような社会の変化を予測して、これに対応せんとするものと思えます。

この観点に立って、今後この事業の絶大な発展を祈ると共に、今日までこの事業を推進してきた関係者諸氏に対し敬意を表し併せて感謝を捧げます。

声



定年退職後の

私の生活信条

藤波 英 寿

一、生涯、教育の精神に則り、常に研鑽の道に励み、豊かな人間性を養う。

一、過去の思い出に沈倫することなく、謙虚な心で己を持し、現在の境遇を擬視して心の安定をはかる。

一、親戚縁者とは信義を誼して交

わり、友愛を旨とし、聊かも恃む心があつてはならない。

一、年金生活の身なれば虚飾を捨てて実に就き、入るを知りて出づるを制し、将来のため安堵のみちをはかることに心がける。

一、太陽と共に起きて耕作に励み、汗をながしては働くことのありがたさに感謝する。

一、花壇には四季折りおりの花を咲かせ、道行く人に和らぎの心を与えたいと思う。

一、書を鑑賞し、古典の書籍を繙き、音楽に耳を傾け、自らも先人に倣い創作活動に精進する。

一、徒然なるままに旅に出で、房総の潮騒に胸を躍らせ、古刹を訪ねては、敬虔な心で神佛の加護に頼つく。

一、流山近郊にてよめる歌

1. 雨晴れて ひよどり来鳴く  
平方の路に一際  
花空木呀ゆ

2. 初詣 孫に手をかし  
鐘をつく 深井の里に  
浄信のひびき

一、むすび  
長かりし 人生行路 七拾年  
遂の住み家か 流山の郷

老いに直面しての  
「ひとりごと」

麻生 修

流山市高齢者事業団の発足から三年、会長以下会員の鋭意懸命の努力で今回社団法人流山市シルバー人材センターへの発展的転換は誠に同慶の至りで、更にますますの充実を切望する一人です。

今回、かねてより切望していた会報の発刊をみて中心より喜んでおります。

私は一昨年四十五年間のサラリーマンの朝夕から解放され、年金生活に移り事業団に加入させていたゞき自転車整理に老いの徴力をささげると静かに感じております。

時が流れ、高齢化社会の中で時代の变化と共に老いに対するさまざまな生き方が通じる現在は、随分と生活様式も変り、自由な考察も、まかり通る今になって、なぜ若く柔軟な思考を持てた頃にもう少し老後の事を考える努力をしなかつたかと老いに直面しての非常に大きな反省材料の一つです。後

なものであることかと、眠りの浅い老人の夢の中に出てくるものば明日への夢ではなく過去のものばかりで、しばしのまどろみの邪魔をする、それは、わびしいものです。

老いは、これが迷惑になるのだと承知している間はまだ老いてはいない。このような場合はじゅう分救われるが、それがあつた日、突然自分がわからなくなり同じ話をくり返し昔の追憶にしたる。自身

自身の限界を知る方法はないだろうか、人によっては寿命の伸びがうらめしくなることすらあるかもしれないが、救いようはないのだろうか？、いくら突ばつても遅かれ早かれ限界の訪れはある。その限界と結論は本人以外に自覚出来ないことだろう。更に自分の経験に執着したワンパタンな生き方で新しい時代の息吹きを認めようとしなくて頑張るのも老いの訪れである、困るけどこの問題をどのように捕えたらよいだろう。

人生の終着駅を老人のふきだまりときめつけて微笑する人達に説明のつかない、いらだたしさを

## 声

感ずるのは私だけなのか。やがて死は来るその前に老いがある、今になって焦つてみてもどうにもならないと、あきらめに似たものを感じながら、お互い老いの人生のだから仲よくしようと思つて、それにしても私の人生ははかなくたわいないなものだと思ひながら長いため息まじりに春を待ち、空を仰ぐ。

和やかに老いの集いや梅の庭!!

## 駅前自転車整理

田 邨 留 吉

流山市は、首都圏のベットタウンとして地理的に恵まれた環境から、人口十二万人の地方都市へと発展している。

国鉄や東武鉄道で都心への通勤通学者などで各駅とも乗降車が著しく増加している。中でも江戸川台駅の一日平均乗降者は、二万七〇〇〇名で駅周辺には、四五〇〇台を超える自転車、東口・西口の駐輪場に溢れている。

現在駅周辺の自転車駐輪場問題は全国的な悩みで、自治体によっては条例を定めて登録し有料扱いを実施している。

当市ではシルバー人材センターに委託して毎朝二時間、十一名の会員が輪番制で整理に当たっている。乗り捨て、赤錆びしたもの、他人の迷惑を考えない人、取り出すとき隣の自転車に倒れても気にしない人、指定外の所に平気で置いて行く人など、さまざまです。

当番のたびに思うことは、利用者のモラルやマナーを期待したい。これは大人の社会だけの問題ではなく、青少年の健全育成に大きな影響のあることを考えて欲しい。

私は自転車を整理しながら、紙屑やビニール袋や空缶等を拾います。でも中には有難うと言って駅に急ぐ人、無言のまま立ち去る人もいます。

二月一日から「社団法人・シルバー人材センター」として権威ある団体に認可されたことは私たちが会員だけの喜びではない。今後私たちは、この法人団体の意義と目的を再確認して、益々地域社会の発展と明るく住みやすい都市作りに奉仕したい。

# 成熟社会に向って 前進しよう

椎名 清

秋は春とともに美しい。私は熟した柿の実が、夕陽に映えて一段と輝くのが大好きです。

柿の実の熟したものは二種類あって、へた虫や生理的に色づくものと、本当に熟したものがあつた。人間社会も腐って成熟したかのような偽成熟社会と、名実ともに熟した成熟社会がある。

流山高齢者事業団が、シルバー人材センターに躍進し今年は二年目となりました。センター発展のため重要な機会です。市民一人ひとりこのセンターを正しく理解し、会員もまた自覚し自主性を発揮しなければならぬと思ひます。

私たちは、永年の生活経験と能力を活かし社会の核となり成熟社会を育てたい。それには積極的に参加して後継者に喜んで迎えらるる、そこに生きがいをもたないものです。

自転車を整理をしたり、学童の安全登校を補助したり、公園・遊園地の奉仕作業などに参加し社会環境をよりよくしたいものです。

求に意欲の少ない現実社会に私たちは、先ず理論より実践を通してバランスのとれた住みよい地域社会作りを奉仕したい。ゲートボールで適当な運動をして気力と体力を増進し、時にはカラオケで大いにコミニケーションを高めたい。

組織は、会の活動を促進するために重要で専門部会を作り、広報研修、仕事の開拓など大いに前進したい。

## 手話

五十君 利子

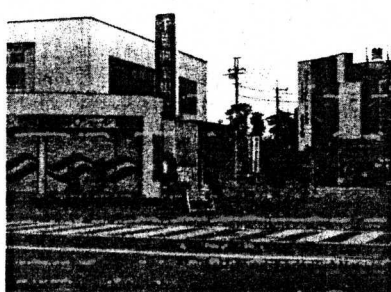
# 声

自分では元気のつもりでも、年をとるとどこか体に故障の起るもので、私は朝目が覚めると指先がこわばって痛くて、思う様に動かなくなる事が度々ありました。これはいけない何んとかしなくてはと思

話の先生は三歳の時中耳炎が原因で聾啞になられた方です。その生のしなやかな手の動きは、ほんとうに心のこもった感情の表し方です。言葉に変わる十本の指がこんなにも意志の疎通に役立つとは感激しました。少し習ってみて今迄わからなかった手話の世界、聞こえない方々の大変さ、そして障害にもめげず明るく、思いやりがあつて、卑屈にならずに、互いに助け合つて生活している人達に心の底から頭が下がります。指先の勉強にと軽卒に入つた私は申訳ない気がしました。今では同じ気持ちで一緒に勉強した良い友達も出来まして、ほんとうに習つてよかったです。とてもまだ出来ませんが指先を使う事は脳に通ずると申します。材料も何も必要なく自分の手で表現し交流が出来るのですものこんなよい方法はないと思ひます。これからも機会がありましたら是非習つて行き度いと存じて居ります。

## ☆ 道が泣いている

二枚の写真は同じ場所です。我々が整理している時は一台も放置自転車のない駅前広場が午後には歩道を埋め車道まではみ出て、交通を妨害し美観を損ねています。自転車利用の皆さん、どう思いますか。



午前8時



午後3時

江戸川台東口駅前広場

研修旅行に参加して

山口郁哉

流山シルバー人材センター(以下当会)の今年度研修旅行、三月十五、十六の両日に参加する機会を得ました。生憎の雪の日で心配しましたが、心からほのぼのとした楽しいものでした。幸い同友甲府市シルバー人材センターを訪問する機会を得まして、お尋ねした事項のいくつかを取りまとめてみました。

甲府人材センターの役員編成について頂いた名簿では、労働省及び市役所の指導機関に加えて、労働、中小企業、能力開発などの各機関更に自治会連合会などによる指導層の充実の中々のものと感心しました。が、会員の自主性主体性を最大限に尊重するシルバー人材の基本的理念からすると、これによいのかと一寸首をかしげる気持ちになりました。

事務局長さんのお話では、このような経過は設立発足当時のむづかしさで各界の指導者にお呼びかけしたので、次期改選時には育成された正会員より理事定員の1/3以上の進出が望ましい形態である

うとのことでした。

次に五十七年四月、五十八年一月までの職種別就業実績で事務整理二九九件、十七、四%で内容は、転記、図書整理、家庭教師、その他各種講師であり特に宛名書きは常時十名を派遣し、月収も個人で十万円平均とのこと。これは、県の水晶工業者が全国的に発送するカタログが主であり、この作業に従事するには、企業が行う書体審査に合格の必要があるとのことでした。

やはりきびしい業界の裏面をうかがいしれたような気持でした。次は五%程度の実績ですが、外交交渉の項目で主にビジネスホテルの受付、デパートの配送等がありました。

なお、会員の職業訓練の一環として植木の手入れ講習会があり百名近い人が受講しなかなかの人氣で、近く又開講に予定人員百人の計画とのことに驚きました。甲府センターでは、この業種が目玉商品だと胸を張っていましたが、一寸羨しい感じがしないでもありませんでした。次に広報活動については、市の

広報誌に必要時に適当に掲載してもらっていて、月二度は各家庭に届けられている由でした。

以上各項目毎にそれぞれ役員の活躍指導が一本筋を通してのようには思い一人こくり領きました。何れにしても、各都市の特徴と地理的条件、環境の相違、発足時の状況変化などが大きく、その後

事務局便り

シルバー人材センターの基盤となった高齢者事業団についての歩みを極く簡単ですが申し上げます。シルバー人材センターへの認識を新たにしていれば幸に存じます。

シルバー人材センターの前身である事業団は昭和五十五年八月二十五日任意団体として会員五十三名で発足し、昭和五十九年一月三十一日法人化移行により解散までの間、一時は、会員数二二三名を数えましたが高齢化と健康上の理由及び市外転出等により会員一七

の運営内容や発展の姿に影響していることは否定出来ないことであると強く感じました。

さて我がシルバー人材センターの現実は如何であろうか、又今後の運営面や実りある拡充には他の同友の実態も大いに参考にすべきだと感じた次第です。

九名をもって、事業団は発展的解消を遂げました。この事業団の実績は別表のとおりで、会員の汗の結晶と共に社会参加の意義がこめられたものと思えます。駅前自転車整理事業の受託から始まり解散当時には就業種目は一七種類にも拡がりました。こうした基盤をもってシルバーになったわけです。で、会員相互において知慧と長い人生経験を出し合えばもっとも就業の分野も広くなると思えます。これからの後輩のためにも「働く」という意義の尊さを今一度考えて見ましよう。

(別表)年度	受注額	就業者配分金	就業延人員
昭和五十五年度	一、八二四、六一〇円	一、七九六、〇四三円	一、三三四名
昭和五十六年度	一〇、一五六、四九六円	八、二九五、二五九円	六、二二一名
昭和五十七年度	二、三、八二二、〇七〇円	一九、五三二、五四〇円	一一、一六三名
昭和五十八年度	二、五、〇〇三、八六四円	二一、〇一七、六〇六円	一三、七〇三名



### 研修旅行に参加して

椎名 清

私たち、第二班は三月二十六日八王子市「社団法人シルバー人材センター」を訪問し次のように感じたまゝ報告いたします。

一、センター事務所について  
仮事務所であるが、会員集合に便利であることを第一条件として定め、市庁舎にと再三話しがあっても現在の事務所運営しているとの事、これは実に立派な事だと思えます。

二、国庫補助金について  
事業費国庫補助として五十パーセントの補助、但し発足から五カ年その後は収益金で賄う、これは自主独立の意欲をもたせるためと説明がありました。

三、入会希望者の扱いについて  
毎月一回希望者を招集して、会の組織や事業内容などを詳しく説明し、話し合いにより希望職群に登録して理事会の承認を求めて入会させるということです。

### 四、専門部会と開拓委員会

について

理事二十名、総務部会、事業部会、広報部会、婦人部会と四部会

を作り、職場開拓委員会を構成し理事はそれぞれの部会に入って運営の推進を図っているとのことです。

五、技能向上訓練について  
植木の手入れ、屋内外の塗装、大工、ふすま、障子の張り替えなどの仕事は比較的受注が多いので技能向上のため実技研修に努力しています。

六、まとめ  
人間の老化には個人差があります。今では六十歳定年が一般化され、働きたい、自分の能力と体力で地域のため奉仕したい、これが会員の願いであり生き甲斐だと思えます。

流山シルバー人材センターの健全な発展は会員一人ひとりの義務と努力であると信じます。



江戸川台西 某宅  
植木手入 (松)



西初石 某宅 塗装工事



向小金 某宅 窓改良工事

### 講習会

左の通り実施します

#### 一、講義課題

- 1 植木
- 2 芝刈 除草
- 3 フスマ 障子
- 4 塗装

#### 二、実施期日

詳細追ってお知らせする

#### 三、申込み

事務局まで電話にて

氏名 住所 電話番号

受講課題 を連絡下さい

事務局電話

五五―三六六九

福祉センター内  
作業所



## 役員地区担当一覧表

	担当者	電話番号	地区名
1	会長	後藤正一 52~3318	西深井 深井新田 平方 平方村新田 平方原新田
2	理事	広木平七 52~3747	東深井 こうのす台
3	理事	宍倉安三郎 52~4511	江戸川台西1~4 中野久木 北 富士見台1~2 小屋 上新宿新田
4	理事	鈴木政信 52~0553	江戸川台東1~4 青田 駒木台
5	理事	越後谷喜七 52~6919	西初石1~6 若葉台 上新宿 南 大畔 谷 桐ヶ谷 上貝塚 下花輪 三輪野山
6	理事	竹内文治 52~8776	東初石1~6 十太夫 美田 駒木
7	理事	大塚静子 58~0621	流山1~8 加後平井 中 前平井 平和台1~5
8	副会長 柏	山口郁哉 45~5971	長崎1~2 野々下1~6 古間木 芝崎 市野谷
9	理事	小笠正明 59~8099	恩井 宮園1~3 鱈ヶ崎 流山 木 西平井 (流山8の一部)
10	理事 柏	伊藤茂 44~1666	名都借 松ヶ丘1~6 西松ヶ丘 前ヶ崎 向小金新田
	監事	清水三郎	58~1241
	監事	風間貞喜	52~0859
事務局	東深井989	電話	55~3669
		事務局長	荒 耕 輔 (市より派遣)

## アンケート (第一希望職)

職別	数	職別	数	職別	数
事務	~30	各種管理	~39	清掃	~26
経理	~4	技能	~18	その他	~3
文書図書整理	~2	自転車整理	~30	計	~156

## 年代・性別人員表

昭和59年3月15日現在

年代	明治三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	大正一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	昭和四	計
男	2	1	4	3	10	4	7	8	10	9	3	9	8	8	9	10	11	7	6	10	2	2	2	0	1	0	146
女	0	0	0	0	1	1	1	4	2	4	1	6	2	3	3	1	2	3	2	2	2	0	0	0	0	1	41
計	2	1	4	3	11	5	8	12	12	13	4	15	10	11	12	11	13	10	8	12	4	2	2	0	1	1	187

## アンケート調査結果

昭和58年6月調査

提出者内訳		加入の動機					健康状態					希望労働時間					希望就労日数						
年齢の大別	性別	人数	社会参加	経済的	健康	その他	記入なし	良好	時々	通院中	記入なし	二時	三時	四時	五時	六時	八時	記入なし	週二日	週三日	週四日	週五日	記入なし
75	男	17	7	1	7	2	1	12	1	1	2	3	1	4	2	3	6	2	2	5	3		
	女	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0		
	計	19	9	1	7	2	1	12	3	1	2	5	1	4	2	3	7	3	2	5	3		
74	男	43	21	5	15	1	0	28	2	2	3	1	11	7	15	3	3	11	8	16	4		
	女	17	11	0	6	0	0	9	5	2	1	10	2	2	2	1	2	6	3	2	4		
	計	60	32	5	21	1	0	37	7	4	4	11	13	9	17	4	5	17	11	18	8		
70	男	41	16	6	17	1	1	27	1	1	1	1	13	13	12	2	6	11	10	9	5		
	女	10	4	1	3	0	2	7	2	1	0	2	3	1	2	2	1	3	2	1	1		
	計	51	20	7	20	1	3	34	3	2	1	3	16	14	14	4	7	14	12	10	6		
69	男	19	11	2	6	0	0	12	1	0	0	1	3	1	9	2	1	4	7	6	1		
	女	7	2	1	4	0	0	3	3	0	1	0	3	1	1	2	1	1	1	3	1		
	計	26	13	3	10	0	0	15	4	0	1	1	6	2	10	4	2	5	8	9	2		
64	男	120	55	14	45	4	2	79	5	4	6	6	28	25	38	10	16	28	27	36	13		
	女	36	19	2	13	0	2	19	12	3	2	14	8	4	5	5	5	11	6	6	6		
	計	156	74	16	58	4	4	98	17	7	8	20	36	29	43	15	11	39	33	42	19		

昭和58年度(58.4.1 / 59.3.31)実績表

(単位：千円)

事業別	職 種	就 労 状 況			契 約 金 額			
		件 数	人 員	延人員	配分金	事務費	原材料	計
民間事業	大工、植木、塗装 その他、専門技術	240	351	604	4,438	489	1,590	6,517
	屋外軽作業、清掃 除草、雑役	126	170	1,018	2,396	263	40	2,699
	屋内軽作業、 雑 役	10	126	2,137	2,114	116	0	2,230
	そ の 他	21	32	110	394	40	107	541
	民間小計	397	679	3,869	9,342	908	1,737	11,987
公共事業	公共施設、管理	84	244	2,445	4,399	578	15	4,992
	公共施設、清掃	24	37	314	782	71	20	873
	自転車整理	10	599	6,915	6,011	316	0	6,327
	そ の 他	24	76	160	483	37	304	824
	公共小計	142	956	9,834	11,675	1,002	339	13,011
合 計		539	1,635	13,703	21,017	1,910	2,076	25,003

編 集 後 記

会報第一号、不慣れな者が集まってまとめました。我々の頭が硬いせいか紙面も固苦しくなりましたが創刊号の宿命としてお許し願います。

深い趣を身上とし、この味を仕事に、また会報紙面に生かしたいと思えます。次号より会員の声、文芸等の欄も充実し皆さんに一層親しまれる紙面にしたいと考えております。よろしくご協力をお願いいたします。

編集員一同

俳 句

人材の春のスタート創刊号  
より寄りの寄せ合う春の巢立ひな  
庭師いて鉄を休めてふところ手  
子等の声石塀突き抜け日向ぼこ  
校門脇標示の外に猫柳  
雪降って黄楊も笑帽子子等はしゃぐ  
子等の声下萌の道雪残る  
春寒に冴返りたりアルバイト  
ゆく雁の正しき序列仰ぎけり  
如露を手に素足の妻に風光る

太田 甚助  
" " " " " "  
竹内 文治  
" " " " " "  
宍倉 安三郎

岡本 静枝  
大塚 静子  
山口 郁哉  
椎名 清  
加瀬 豊春  
五十君 利子

以上